



令和5(2023)年度 第14期 とちぎの教育未来塾

第4日〔令和6(2024)年1月13日(土) 第14期生 108名〕



【選択講座B】 幼少期の学びに関すること

講話・研究協議「子どもの学びを支える架け橋期の教育」

栃木県総合教育センター 幼児教育部指導主事 富川 千明



受講後の振り返りから

【現職】

- ◆ 架け橋期の教育は、5歳児の無自覚な学びから小学校1年生の自覚的な学びをつなげていく大切な時期であることがわかりました。小学校1年生を担当していますが、ほんの数ヶ月前まで幼稚園や保育園で遊びを通して学んでいたことを思うと、今、当たり前に行えるようになった学校生活は、子どもたちの頑張りの中にあるのだと気付きました。今後も子どもたちの様々な気付きに寄り添っていきたいと思います。
- ◆ 子どもの学びの場を作るのは、教師の役目だということを改めて感じました。中学校の保健体育においても、目的に合った場の設定をして子どもたちの発想を促していくことが重要だと思いました。その発想や学びを肯定し、自信につなげていくことができるようにしていきたいと思います。

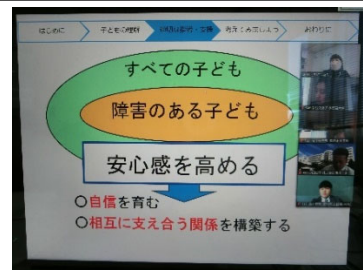
【学生等】

- ◆ 架け橋期の子どもたちは、無意識と自覚的な学びの中でたくさんの気付きを得ていることがわかりました。教師として子どもたちとかわる時には、子どもたちの気付きをつぶしてしまうのではなく、臨機応変な対応で授業などに生かしていくことができるようにしたいです。
- ◆ 幼小連携が重要だと思い、小学校教諭の免許に加えて、現在、幼稚園教諭の免許取得のために学んでいます。今回の講座で、「遊び」から様々な能力等を培った幼稚園と小学校での教育をつなぐことが必要なことを再確認できました。小学生になるということは、ワクワクした期待感がある一方で不安も大きいと考えられるため、教師になった際には日々全力で援助をしていきたいと思います。

【選択講座B】 特別支援教育に関すること

講話・研究協議「通常の学級における特別支援教育」

栃木県総合教育センター 教育相談部指導主事 仁藤 裕子



受講後の振り返りから

【現職】

- ◆子どもたちの困り感を早期発見できるように、一人一人をよく観察していきたいと思いました。また、障害の有無に関わらず、全ての子どもが安心して過ごせるように、相互に支え合うことのできる関係性を構築していき、その子にとっては必要な支援、他の子とっても便利な支援を目指していきたいと思います。
- ◆一人一人の生徒が「自分は認められている」と感じることで、初めて他者を認められる学級をつくることができると感じました。支援の手立てを考えるだけに留まらず、生徒が実感できるように、また行動できるようにかかわってきたいと思います。

【学生等】

- ◆「困った子は、困っている子」や「特別にならない特別支援教育を」というお話が印象的でした。特別支援教育は全ての子どもを対象に、一人一人が持っている力を最大限に発揮するためにあることから、まずは子ども一人一人をよく見て理解し、適切な指導・支援につなげていきたいと改めて感じました。
- ◆特別支援教育について、「〇〇なのではないか？」という想像力をもちながら、児童の行動の背景や思いを考えることが必要であり、児童理解をして一人一人のニーズを把握することが大切なことを学びました。環境を整えて安心感を高めることや互いに認め合う関係を育むことができるようにしたいです。障害にとらわれることなく、特別でなく当たり前特別支援教育を行うことができる教師を目指していきたいと思います。

【選択講座B】 学校・地域・家庭（保護者）に関すること
講話・研究協議「子どものよりよい成長を支える地域とともにある学校づくり」
栃木県総合教育センター生涯学習部副主幹 長野岳水



受講後の振り返りから

【現職】

- ◆なぜ地域とともにある学校づくりが重要なのかという理解することができました。子どもたちに求められる資質・能力を地域と共有することで、より社会に開かれた教育課程を実践していくことができ、地域とともに一体となって学校運営を行い、教育の充実を図っていくということは、未来の子どもたちを育成する上でとても重要なことであると感じました。
- ◆協議の中で、「地域との繋がりを一回の行事等で終わらせることなく、回覧板や感謝の手紙、地域で行われている類似活動の紹介などで、継続的なものにしていくべき」という意見があり、まさにその通りだと感じました。子どもたちの学びのために、地域の方々との連携を意識していきたいです。

【学生等】

- ◆地域連携をする際に、教師と地域の方とどのような目的で実施するのか、子どもたちにはどんな事前事後指導が必要なのか、楽しいだけでなく深い学びにつなげるにはどうしたらいいか、など様々な視点で考えることができました。社会に開かれた学校として、地域と学校が互いに協力・連携し合い、地域で子どもを育てていくことができるよう、地域の方々との連携していきたいと思いました。

- ◆自分が今まで体験してきた地域と連携した取り組みには、様々な効果があったのだと改めて感じました。地域と共に協働し、継続的に子どもたちの教育の充実を目指していくことで、学校や児童生徒へ様々な効果をもたらしていく可能性に満ちたものであると感じました。

研究協議 「教師を語ろう②」 栃木県総合教育センター 研修部員

ラウンドテーブルにて、第14期「とちぎの教育未来塾」4日間の学びを振り返り、研修での学びや気づきについて発表しました。その後、他の受講生や指導主事に聞きたいことを話題として提供していただき、協議しました。

受講後の振り返りから

【現職】

- ◆現職の先生や学生、また一般企業で働く方など様々な人たちからの意見を聞くことは大変貴重な機会であり、それぞれの視点や考え方を知ることができ、とても参考になり、刺激を受けました。自身の考え方を改めるきっかけにもなり、情熱と誇りをもってこれからも学び続け、子どもたちのためにという思いが強まりました。
- ◆ラウンドテーブルを通して、他校の先生方や学生の方のお話から、学び気づきを多く得ることができました。現場では自分の中で解決してしまうことが多いので、学生の方がどのようなことを考え、知りたいのかを聞いて、答えることで、今の自分の指導を見つめ直したり、整理したりすることができました。今後の指導に生かしていきたいと思います。

【学生等】

- ◆幅広いテーマについて、現職の先生方や他大学の学生の方など様々な人々と、考えや思いを伝え合うことで教育と真剣に向き合うことができました。現職の先生にお話を聞くことで自分の不安が軽減され、教師を目指したきっかけやなりたい教師像を言葉にすることで、気持ちを新たにすることができました。自分の視野を広げられるとても貴重な経験となりました。
- ◆講話や研究協議の内容を振り返り、自分の言葉で説明することで、改めてこれまでの未来塾で学んだことや気付いたことをもとに、自分自身を見つめ直すことができました。自分が抱えていた不安や疑問を現職の先生や他大学の学生の皆さんに聞く場があったことで、視野がさらに広がり、自分の考えを整理するきっかけにもなりました。何より教師になりたいという同じ目標に向かっていく方々と話すことで、教師になりたい気持ちが強くなりました。

閉講式

第14期「とちぎの教育未来塾」が閉講式をもって修了しました。今年度も現職の教員と学生との交流を通して、学び多い4日間になりました。

